



生徒たちが理数系分野のさまざまな研究成果を紹介した発表会

県内高校理数系生徒が交流

4分科会で研究発表

弘 前

県高校校長協会理数科部会(部会長・山内誠一五所川原高校長)主催の第14回県高校理数系課題研究発表会が

7日、弘前大学理工学部で開かれ、県内の3高校から参加した生徒が物理や化学分野の研究成果を発表し、互いに交流を深めた。

同日は県内で理数科がある五所川原高校と文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受ける八戸北高校、三本木高校の1、2年生約300人が参加。開会式で山内部会長が「大勢を前にした成果発表は大学進学や社会に出る際に大きな力になると思う。学校を越えた交流をしてほしい」とあいさつした。

このうち生物系の分科会では、優れた再生能力を持つ扁形動物のプラナリアを切断し、再生芽をすりつぶして与えることで通常よりも再生速度が速くなることなどが紹介され、生徒たちは真剣な表情で話聞き入り、理解を深めた。

学系「物理系」「化学系」「生物系」の4分科会に分かれ、正七角形の作図やプラスチックの植物栽培への利用、ウミネコのふんによる土壌変化など取り組んできた課題研究テーマについて発表した。

(山本恵子)

※この記事は、
陸奥新報社提供です。
無断転載はできません。
[問合せ先]
jm3505@cc.hirosaki-u.ac.jp